



Frente

三重県男女共同参画センター

フレンテみえ

フレンテとはスペイン語で「前向き」という意味です。

vol.67
2016.12

大特集
Report!

蝶野正洋講演会

最強パパ伝説「蝶野正洋という生きかた」&

第3回「ファザー! オブ・ザ・イヤール in みえ」表彰式

三重県内男女共同参画連携映画祭

10周年記念上映「わたしはマララ」

「十人十色」

Report

- 私の声も大事!
女性のための防災講座 入門編
- 女性のための離婚講座
「熟年離婚を考えたとき」
～今から独りで生きていけるのか～

予告

三兔社公演41「ザ・空気」

目標へ一歩ずつ!
私らしく働くためのリーダーシップ入門

「男は泣くな」はもう古い!
イケメン男子、はじめませんか

チェンバロで聴く「女性と音楽」ミニコンサート



最強パパ伝説「蝶野正洋という生きかた」

同時開催:みえの育児男子プロジェクト 第3回「ファーザー・オブ・ザ・イヤー in みえ」表彰式

今年度の「フレンテみえ男性講座」は、「みえの育児男子プロジェクト」とタッグを組み、蝶野正洋さんの講演会と、第3回「ファーザー・オブ・ザ・イヤー in みえ」表彰式を同時開催。

定員を超えるご応募があり、当日は30代～40代の男性を中心に、幅広い層のお客様にご来場いただきました。また今回のイベントの趣旨から、未就学児を含むお子さまを入場可としたため、お子さま連れのご家族にもたくさんご参加いただくことができました。

快晴に恵まれた秋の熱い1日をレポートします！

講演会

「ガッデム！アイ・アム・チョーノ！！！」

おなじみの雄叫びとともにご登場いただいた蝶野さんに、FM三重の西本亜裕子さんの進行でお話を伺いました。

前半は、サッカーに夢中になっていた学生時代のお話や、大学受験浪人中にテレビで猪木さんや藤波さん、タイガー・マスクを観て、プロレスラーを志したお話を語っていただきました。

「大学に行ったらアメフトをやりたい。そのために体を大きくする」と家族には嘘をついて、新日本プロレスへの入門を目指し、筋トレをして食べてを繰り返し体をつくった浪人時代。家族は「マサヒロちゃんがやる気になってくれた」（意外にも家族には「マサヒロちゃん」と呼ばれていた）と喜ばれたそうですが、大学に合格しながらも新日本プロレスに進むことを選んだときは、母親を泣かせてしまったそうです。

ご自分が親になった今「自分がそうだったように、いくら反対してもきっと子どもは自分が好きな道を歩む。親にできることは、いろいろな体験をさせたり、子どもが選んだ道がよりよいものになるよう応援すること」と考えられているそうです。



続いて、妻のマルティーナさんとのエピソードも。

「ドイツで出会った頃、彼女が繰り返し『アー・ユー・ボーリング・ウィズ・ミー (Are you boring with me?)』と言って。その時は『ボウリング (bowling)、好きなのかな?』と思っていた。時が経ってアメリカの日本食レストランで、急にそのことを思い出して、店主に『ボウリングって、投げるボウリング以外に意味がありますか?』と尋ねると、bowling (ボウリング)ではなく boring (つまらない)、つまり『私といてつまらない?』と訊かれていたということに気づいたんです」

どこか胸をくすぐるような勘違いですが、今では蝶野さんはわかっているが半分わかっているフリをされるそうです。マルティーナさんも、それを知っているが気持ちを吐き出しているようで、それが夫婦がうまくいくコツのひとつとか。



後半は、鈴木英敬知事も加わって子育てのお話をさせていただきました。

子どもが生まれたばかりの頃は、深夜でも2時間おきに授乳をしなければならず、お母さんは大変。蝶野さんのお宅では、夜中はフォーミュラ（乳児用ミルク製品）を使い、蝶野さんが飲ませるようにしていたそうです。

また「子育てで大変だったことは？」との質問に、「1歳半くらいになるまで、子どもと2人で出かけるのが怖かった」と蝶野さん。当時はおむつを替えるスペースがデパートなどにもあまりなく非常に困ったそうです。

「夫婦で子育てをするコツ」について、鈴木知事は“スケジュールの見える化”を実践中。冷蔵庫に夫婦ふたりのスケジュールを貼りだしておくと、お互いの行動を把握できて、「ここは俺がするわ」「ここは頼むわ」ということが言えるようになるそう。進行の西本さんもこの“スケジュールの見える化”を知事に勧められ実践したところ、うまくいっているとのことでした。

蝶野さんは、週2回はエクササイズに行けるようにするなど、妻が自由に使える時間を確保することを心がけているそうです。「俺に自由な時間はないけど…」とボソリ…とつぶやいた場面も。

「ただお母さんひとりで子育てしているとストレスがたまって当然。お母さんがストレスを抱えていると、子どももストレスを抱えるようになる。だから男も一緒に子育てして、お母さんのストレスの発散もさせてあげないと。そういうことを男ができるようになるには、仕事場でのフォローや理解が必要。それを進めるのが上司であったり、先輩じゃないかな」と話されました。

また、ドイツでは夫婦がイーブンで子育てすることが当たり前だし、世界的にもそんな時代になっているという紹介もありました。

父親は息子のことは自分が通ってきた道だからわかることが多いが、娘のことはわからない。逆に母親は息子のことがわからない。異性の子どもがすることに対してショックを受けたり、心配したりすることも多いが、夫婦で共有すれば「そんなものなんだ」とわかるというお話も。

蝶野さんからはほかにも、救急救命活動や防災についても、強い思いが宿った言葉をいただきました。



参加者からは、「蝶野さんがいかついみてくれで『おむつが怖かった』と言ったのが、インパクトがあった」「最近、仕事が忙しく、子育てを妻に任せきりになっていたが、初心に帰ろうと思った」「育児、家事に対する新たな考え方を学ぶことができた」、そして「蝶野さんの話をもっと聞きたい」という声を多数いただきました。

この夏は家族旅行で伊勢神宮に参拝されたという蝶野さん。内宮の存在を知らずに外宮を訪れたら、「内宮に行かないと」と言われ、急いで向かったものの時間がなくおかげ横丁だけしかまわれなかったそうです。

今回はぜひ内宮にも参拝いただき、そして「フレンテみえ」でまたお話しいただけたらと思います。

表彰式

家庭や地域でステキな子育てをしている男性（＝育児男子）や、部下の仕事と育児の両立をしっかり応援してくれる上司（＝イクボス）などを表彰する「ファザー・オブ・ザ・イヤース in みえ」も第3回を迎えました。

今回は大賞を7名、部門賞を1名と1団体、みえの育児男子ベストショット賞を5名の方が受賞されました。

詳細については で

プレゼンターとして、講演会に引き続き登場していただいた蝶野さんからは、「子育てをするお父さん、お母さんを取り巻く環境が大切。周りが理解していくこと。イクボスはそれを引っ張っていく先導役です。そしてみなさんも周りに子育てをしている人がいたら、『大変だろうなあ』と理解してあげてください。人を思いやる気持ち、みんなで支えようという気持ちが、子どもたちが成長しやすい県にしていきたいと思います」とのメッセージをいただきました。



そして、鈴木知事は最後に、「家族というのは十人十色。家族の数だけ、子育ての方法がある。たったひとつだけが正解ということはありません。正解ばかりに気を取られるよりも、のびのびと大変だけど楽しくやっていく。そんな子育てをしている人を応援する三重県でありたいと思います」と、締めくくりました。

今回の講演会と表彰式は、三重県でこのような男性の子育てを推進する活動があることを、広く披露する機会となりました。この活動の輪がさらに広がるよう、「フレンテみえ」では今後も関係機関と連携し、取り組んでいきたいです。

三重の木でつくったキッズスペースが登場

今回のイベントでは、三重で生まれた木のおもちゃ「ミエトイ」のキッズスペースと木のボールプール「もりぼーる」を展示・設置しました。みんな夢中になっていました。

キッズスペースの
お問合せは

- 三重県農林水産部みどり共生推進課
- みえ森づくりサポートセンター
- TEL：059-224-2513 E-mail：midori@pref.mie.jp





三重県の男女共同参画を身近に感じていただくため、県内のセンターと市町が手を取り合い毎年開催している「男女共同参画連携映画祭」。

県内の多くの皆さまに支えられ、今年で10周年を迎え、それを記念して10月1日(土)、フレンテみえでも8年ぶりに上映会を開催しました。上映作品は、どのような状況におかれても、女性や子どもたちにとって教育が必要であることを訴え、2014年に17歳でノーベル平和賞に輝いたパキスタン人女性マララ・ユスフザイさんのドキュメンタリー映画「わたしはマララ」。

当日は、県内各地からたくさんのお客様にご来場いただきました。



記念イベント「上映前プレトーク」

この映画祭と上映作品にちなみ、長年この映画祭の作品選定などにも携わってくださっている三重の女性史研究会事務局長である佐藤ゆかりさんより、連携映画祭の歴史や男女共同参画の視点から見る映画について等のお話をいただきました。

また、公益財団法人ジョイセフで海外の女性の支援活動を行っている小野美智代さんより、海外の女性の実情や、三重県に住みながらできる国際支援についてお話いただきました。



当日は、世界の女の子たちの支援につながる公益財団法人ジョイセフによる「チャリティーピンキーリング」の販売や、フェアトレードショップのブースも登場しました。

途上国の子どもたちを支援している公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンさんにご協力いただき、「Because I am a Girl」のパネル展示や映画祭10周年記念ポスター展も行いました。

ジョイセフで行っている支援方法やジョイセフに関する情報はこちらのホームページからご覧いただけます。

<https://www.joicfp.or.jp/jpn/>



フレンテみえ 平成28年度エンパワーメントスクール 私の声も大事! 女性のための防災講座 入門編

開催日:7月9日(土)、10日(日)、18日(月・祝)

災害が起こったときに女性が意見を伝えることの大切さ、そしてどのように伝えたら良いのか。それを学ぶため、講義とワークショップを織り交ぜながら3日間の講座を実施しました。

1日目にはフェミニストカウンセラーの丹羽麻子さんより、東日本大震災発生後の福島で女性相談員を務めた時に感じたことについてお話がありました。「女性だから」というだけで普段の生活にプラスして、炊き出しなどの役割を求められてしまう現実。その中で、女性たちの抱える個人的な悩みを放置せず、その課題をくみ取ることの重要性を伝えていただきました。

2日目は、1日目で学んだことを生かして、実際の避難所運営を想定したワークショップを行いました。高齢者や障がい者、性的少数者など、避難所では様々な人たちが共同生活をおくります。暮らしやすい環境をつくるために、どのような運営をしたらよいか、グループ毎に話し合いました。

最終日は再び丹羽さんを講師に迎え、災害時に起きた実際の事例を使って参加者のみなさんに自分の言葉で意見を伝える練習を繰り返して行ってもらいました。また、声に出して繰り返すことで徐々に自信を持って意見を伝える実践力を身に付ける機会となりました。

最後に、災害時の備えとして、すでにやっていること、これからできることなどをまとめた「私の防災計画」を作成し、講座を締めくくりました。なかには「私も声をあげる!」という計画を発表した参加者も。女性も声をあげる事の大切さをよく理解できる、充実した講義となりました。





世界の女性の現状と、わたしたちが三重県からできる支援について

小野さんにはたくさんのお話をさせていただきましたが、中でも印象的だったお話を紹介します。

小野さんがタンザニアで出会った女性、ジュリアナさん28歳

タンザニアの女性、ジュリアナさんは、12歳で結婚、13歳で初めての出産をしましたが、その赤ちゃんは死産でした。それから、10回出産しましたが2回が死産。途上国では、女性が出産をすることは母子ともに命がけで、世界では10代の女の子の死因は妊娠・出産・中絶が主な原因になっています。ジュリアナさんの長女は現在14歳。小野さんやジョイセフのメンバーが、ジュリアナさんに、今、長女を結婚させたいか聞いてみたところ答えは「NO(嫌)」ジュリアナさんは学校に行けなかったのでタンザニアの公用語であるスワヒリ語が話せず、そのせいで今もいじめられており、「だからこそ、娘には教育を受けさせたい」と語っていたそうです。



タンザニアの少女たちは、なぜ12歳という年齢で結婚するのか

貧困家庭ほど早く結婚させる背景があり、理由は結納で牛がもらえ、結婚する女の子が若いほど牛の頭数が多くなり、生活が苦しい親も家庭内での食いぶちを一人でも減らしたがるからです。

また、ジュリアナさんの住む地域では、「多く子どもを産むのが女性として立派とされている」「避妊の方法を知らない」「家族の長(一番年齢の高い男性)の意見に従う」「女性が子どもを産めないのは恥ずかしい」という文化や風土が根強く残っているからです。

タンザニアでは妊娠の知識がない中学生が知らないうちに妊娠してしまうこともあります。そうすると男女ともに生徒は退学ですが、退学になりたくないで男の子は妊娠させたことを否定し、妊娠したことが体にあらわれる女の子だけが学校をリタイヤせざるを得ない現実があるのです。

世界の女の子にわたしたちが出来る支援

ジョイセフが行っている国際支援のひとつに、使用済みのランドセルに新品の学用品を詰めてアフガニスタンの女の子に贈るといった活動があります。

アフガニスタンの貧しい家庭では、女の子には家事や仕事の手伝いをしてほしいから、教育を受けさせなくていいと思っている親が多数います。ところが、ジョイセフが学校でランドセルを配給しているところをみたお母さんが、「あんな宝箱のようなランドセルをうちの娘にも持たせてあげたい!」と感じて、「うちの娘も学校へ通わせよう!」というきっかけになりました。

他にも、世界の女の子たちが健康であること、健康であるために知識・教育を受けることが出来るように、学用品の寄付や使用済み切手の収集など、私たちが三重県から出来る国際支援の方法についても教えていただきました。

小野さんから三重県の皆さんへメッセージ

「Think Globally ,Act Locally(シンク・グローバルリー、アクト・ローカリー)」

常に世界の事を考えながら、地元で出来ることをやっいていこうという、この言葉が大好きなんです。自分が楽しくなければ続かず辞めてしまうものです。なので、「私にも良くて世界にも良いこと」を、みなさんと一緒に取り組んでいければ良いなと思っています。是非、三重県から皆さんの出来ることを、今日から始めていただけたらと思います!



女性のための離婚講座

「熟年離婚を考えたとき」～今から独りで生きていけるのか～

開催日:9月21日(水) 13:30~15:30

フレンテみえ相談室には、離婚の相談が多く寄せられます。その中でも熟年層からの相談の多くが、離婚後の経済的不安を訴えています。そこで、「子どもが独立したら離婚したい」「今からでも一人で生きていけるのか不安」と感じている熟年の方を対象に、ファイナンシャルプランナーの嶋田衣余さんから離婚にまつわるお金の話をさせていただきました。

離婚してから後悔しないために、まず離婚した場合のメリットとデメリットをしっかりと見つめることが大切であるということ。また、離婚後の具体的なライフプランの立て方や財産分与、慰謝料、離婚成立までの婚姻費用、年金分割、就労などについて説明がありました。

離婚する・しないに関わらず、天災や病気などで家族の状況が変わることはあります。お金の問題を誰もが自分で考えていくことはとても重要なことです。それが結婚生活、ひいては自分の人生を自分らしく生きるための選択肢を増やすことにつながる、というメッセージがありました。

<参加者の声>

- ・夫の親の介護は、法的には義務が無いという点がわかって大変良かった。離婚後の経済的な点検、計画こそ大切だと思う。
- ・ファイナンシャルプランナーの方からライフプランの計算の仕方を教えていただき良かったです。
- ・まずは情報収集、自分の生活の振り返りをする、行動に移す、の3点を踏まえて、自分の頭をすっきりさせ段階を踏んで、これからの老後を明るく生きていこうと思いました。



「女性と音楽」

～クラシック音楽での女性史～

今までとりあげられることの少なかったクラシック音楽史での女性の活躍についてのコラムをお届けします。次号最終回にあわせて、コラムにちなんだ曲をチェンバロの音色とともに楽しむミニコンサートを開催予定！今回は「メンデルスゾーン」です。

連載
第3回

もうひとりの 「メンデルスゾーン」

メンデルスゾーンは、「結婚行進曲」や「春の歌」など、そのメロディーを聞くと誰もが「聞いたことある！」となるような曲を多く残した音楽家で、モーツァルトにひけをとらないくらいの「神童」であったと言われていました。今回とりあげるのは、そんなメンデルスゾーン(フェーリクス・メンデルスゾーン 1809-1847 以下、フェーリクス)に勝るとも劣らない才能を持っていた姉、「ファニー・メンデルスゾーン(以下、ファニー)」です。



「ファニー・メンデルスゾーン」

(Fanny Mendelsshon-Hensel 1805-1847) ドイツ

ファニーとフェーリクスは裕福な銀行家の子として生まれ、4歳のときから音楽教育に熱心な両親より、最良の音楽教育を受けていました。二人の才能はどんどん開花し、姉ファニーは13歳で父への誕生日プレゼントとして2時間を超えるバッハのピアノ曲集を全て暗譜で弾きこなし、弟フェーリクスは13歳でオペラを創作するなど、卓越したエピソードを残しています。二人は常にライバルとして、最良の助言者として、お互いの才能を高めていきました。

しかし、弟フェーリクスが音楽を仕事として各地のコンサート会場で活躍する中、ファニーは当時主流であった「女性の本来の職業は主婦なのだから、自らが活躍するのは控えて家庭に専念し、男性の活

躍の支援に徹すること」という考えから音楽を仕事にすることは許されず、才能を認められているのに公的な場で演奏することができませんでした。

唯一女性にも認められていた、家庭内での私的なコンサートがファニーの音楽活動の場となり、メンデルスゾーン家での「日曜音楽会」をファニーがとりしきるようになります。ファニーは一人で作曲家・演奏家、指揮者、監督として曲の選定から演奏まで全てに関わり、その音楽会は質の高さからたちまち大評判となり、多い時には口コミで300人も人が集まりました。

ファニーは大変理知的な性格で、また、自分の意見や音楽に対する評価をまわりに左右されずしっかり述べることから彼女の人柄や音楽の才能に心酔する人も多く、やがて周りからも楽譜の出版を薦められるようになります。ファニーの才能を認めながらも公的な音楽活動に長年賛同しなかった弟フェーリクスもとうとう折れ、ようやく活躍が期待されるようになった矢先、ファニーは脳卒中で倒れ、41歳でその生涯を閉じます。

弟フェーリクスの落胆はとても大きく、みるみる憔悴して姉へのレクイエム(鎮魂歌)といわれる「弦楽4重奏曲」を作曲し、彼女の残したいくつかの作品の出版を手配すると、わずか半年後に後を追うように亡くなってしまいます。

ファニーの没後150年たって、ようやくひとりの優れた音楽家として研究がすすめられてきました。周囲の考えと自分の思いとの狭間で悩みながら音楽と向き合い続けたファニーの姿がみえてくるにつれて、ファニーにもっと自由な音楽活動が認められていれば…と思わずにいられません。

参考:「クラシック音楽と女性たち」玉川裕子編著 「女性作曲家列伝」小林緑編著
「ファニー・メンデルスゾーン=ヘンゼル」ウテ・ビュヒター=レーマー著 米澤孝子訳

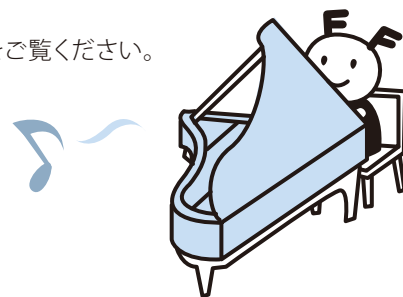
● これからの催し ●

2月26日 チェンバロで聴く「女性と音楽」ミニコンサート 日時:平成29年2月26日(日) 11:30~12:30

今年度の情報誌「Frente」に第1回から連載でお届けしている「女性と音楽」～クラシック音楽での女性史～。最終回の次号発行に合わせ、コラムで取り上げた女性作曲家にまつわる曲を、グランドピアノの前身ともいわれる「チェンバロ」の生演奏とともにご紹介するミニコンサートを開催します。日曜日のひとときを、フレンテみえで音楽とともにゆったり過ごしませんか？

限定カフェ席もご用意!コンサートの詳細、お申込みについてはホームページをご覧ください。

日時:2017年2月26日(日) 11:30~12:30
会場:三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」 1階 情報コーナー



このほかに
ミニセミナーも開催します!

結婚生活が息苦しい…モラハラについて考える

日時:2017年1月18日(水) 10:00~12:00
会場:三重県総合文化センター内

スイーツ男子第1弾 英国式アフタヌーンティーの巻

日時:2017年3月11日(土) 14:00~16:30
会場:三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」
1階 生活工房

*各イベントの詳細情報はホームページに掲載中です!

【連載】ジェンダーって何？

母親が重たい

「お母さん」にどんなイメージを持っていますか。優しい、温かい、包容力がある、自分のことは後回しにしていつも家族のことを考えてくれている、そんな感じでしょうか。

実際はどうでしょう。「なんだかお母さんというのがしんどい」と感じている方もいるのではないのでしょうか。娘が身近な存在である母親に対してうとうとしく感じたり、憎しみすら覚えることがあるのはなぜでしょうか。



それは、母親が娘の苦しみの原因となっていることがあるのです。例えば

- ① 娘になんでも頼って甘えてくる母
 - ② 娘が自分でやる前になんでもやってくれる母
 - ③ 全てが完璧で娘にも完璧を求める母
 - ④ 娘に対して関心がない、または敵対心を抱いている母
 - ⑤ 矛盾することばかり言って娘を混乱させる母
- などがいます。

もしあなたが母親のことを重苦しく感じていたとしても、それはあなただけの問題ではないのです。「母親と娘」という関係も、「社会から求められる性別役割つまり女らしく」「母親らしく」「娘らしく」あるべきというジェンダーによる偏見に大きく影響されているものなのです。

母親が社会から期待されている役割とはどんなものでしょうか。「夫の望む家庭環境を整える」「ちゃんとした”子どもに育てあげる”など、家族全員が気持ちよく過ごせる家庭をつくることや、子育てへの全責任を持つ役割を、母親は父親以上に期待されます。

また、家庭によっては、母親は父親よりも下の存在であるとされ、家族へのサポートは評価されず、意見を尊重されずにないがしろにされることもあります。

一方、娘は育つ環境の中で、母親役割の価値観や考え方を学ぶとともに、「娘の役割」を果たそうとします。“兄や弟には言わないのに、私には家のこと手伝いなさいと言われる”など、娘だからこそ求められる役割に縛られることは、多くの女性が経験しています。また、母親から同じ女性として、母親と同じような人生を歩むことを期待されたり、あるいは果たせなかった人生を期待されたりすることもあります。

そして娘は、母親が認めてくれない、否定されてばかりいる、干渉されて重い・・・感じながらも、苦勞してきた母親から離れることに罪悪感を持ってしまふ。あるいは母親と違う生き方を選ぶことが母親に対する裏切りのように感じてしまうこともあるのです。

母親と娘は違う人格であるはずなのに、社会が求める“役割”を果たし続けることで、境界線が分からなくなり、自分がどうしたいかも分からなくなる・・・そんな苦しさや葛藤は多くの女性が抱える悩みなのです。

このように、母親役割と娘役割を背負わされた女性は、ジェンダーによる偏見によって、自分で自分のことを決めていい、という気持ちを持ちにくくなっているのです。

では、母親との関係に違和感を持つ娘はどうしたらよいのでしょうか。

まず母親が自分に求めている役割を降りることを考えてみましょう。自分を守ることを第一に考えて、母親との間に境界線を引くことが大事です。たとえ親子であっても、他の人間を思いどおりに動かすことはできません。母親に影響されず、自分の人生を自分で選択して生きていくことは母親に対する裏切りでもなく親不孝なことでもありません。娘は娘の、誰からも強制されない自分の望む人生を歩いていいのです。

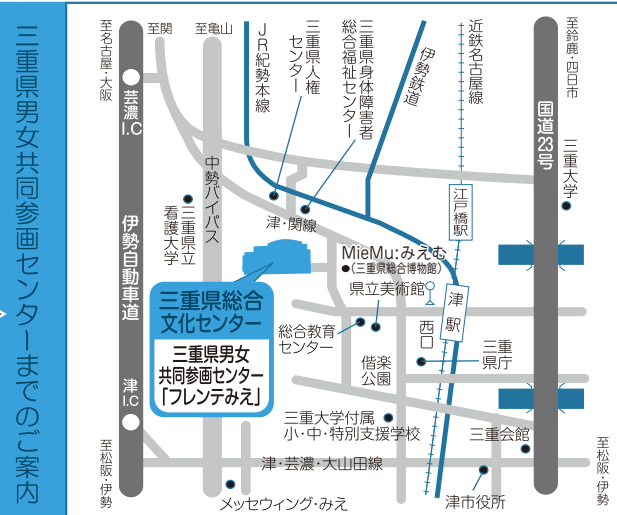
フレンテみえって、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ

検索



休館日 毎週月曜日
年末年始 (12月29日から1月3日まで)
交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135
URL http://www.center-mie.or.jp/frente/
E-mail: frente@center-mie.or.jp

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど...
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 専用ダイヤル 059-233-1133

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00~12:00	休館日	●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00~15:30	休館日	●	—	—	●	●	●	●
夜 17:00~19:00	休館日	—	—	●	—	—	—	—

※ 祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

フレンテみえ相談室のご案内
(切り取ってご利用ください)

※このほか、女性のための面接相談・法律相談と男性性被害の電話相談を実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。

